

気象研究ノート第 249 号

「令和元年房総半島台風と東日本台風」発刊のお知らせ

気象研究ノート編集委員会

2019 年台風第 15 号および第 19 号は社会に大きな影響を与え、それぞれ「令和元年房総半島台風」および「令和元年東日本台風」と命名された。台風の命名は沖永良部台風以来、42 年ぶりである。これらのうち令和元年房総半島台風では、災害に関する死者 8 名（全体で 9 名）、重傷者 20 名、住家全壊 457 棟を記録するとともに（2020 年 9 月 23 日現在）、千葉県君津市の石油コンビナートで燃焼放散塔が倒壊したほか、東京電力管内の 1 都 7 県に渡って最大約 934,900 戸で停電が発生するなど、住民の生活にも大きな影響を及ぼした。一方の令和元年東日本台風では、災害が関東のみならず東日本の広域に及び、死者 118 名（うち災害関連死 21 名）、重傷者 48 名、住家全壊 3,263 棟に達した（2020 年 10 月 13 日 18 時現在、一部、令和元年台風第 21 号の被害も含む）。国土交通省水管理・国土保全局河川計画課が令和 3 年 3 月 31 日に発表した令和元年東日本台風の被害被害額は 1 兆 8,800 億円にも及び、統計開始以降最大の被害額となった。

社会に深刻な影響を及ぼしたこれら 2 つの台風に対して、学術的な観点からは文部科学省科学研究費補助金特別研究推進費による研究課題が立ち上がるとともに、複数の研究機関において緊急調査研究が実施された。それらの成果の一部は、日本学術会議と 57 の学会から構成される防災学術連携体による緊急報告会等で共有された。また、日本気象学会では気象集誌・SOLA 合同特集号・特別号「2018 年・2019 年の台風」が企画され、計 16 篇の査読論文が公表された。本書は、これらの成果のエッセンスをより広く共有するため、専門の研究者に執筆を依頼したものである。初学者（大学 4 年生～修士課程 1 年生程度）にも理解できるよう、難解な概念については模式図なども併用して分かりやすく記述していただいた。

本書は三部から構成される。第 I 部では気候学的な視点から 2019 年の台風活動と海洋大気環境場の状況を振り返る。第 II 部は令和元年房総台風について、被害の状況と台風の実態に関する調査結果や台風と発達構造についての研究をまとめる。第 III 部は令和元年東日本台風に関して、千葉県市原市に発生した竜巻をはじめとする被害の状況、豪雨のメカニズム、予測可能性、地球温暖化が与えた影響を研究した成果を記述する。本書が台風について学習したい方々のみならず、防災対応をする方々にも有益な情報を提供できれば幸いである。

気象研究ノート第 249 号「令和元年房総半島台風と東日本台風」

【目次】

はじめに

第 I 部 2019 年の台風

第 1 章 2019 年における台風の気候学的特徴

第 II 部 令和元年房総半島台風

第 2 章 被害の状況

第 3 章 台風の発達と構造

第 III 部 令和元年東日本台風

第 4 章 被害の状況

第 5 章 豪雨のメカニズム

第 6 章 予測可能性

第 7 章 地球温暖化の影響

【定価】 9,000 円（個人会員価格：6,200 円，個人定期購読価格：4,000 円）

【編集】 和田章義・三隅良平

【執筆者一覧（50 音順，カッコ内は執筆した章）】

足立 透 (4)，荒木健太郎 (5)，飯塚 聡 (5)，伊藤耕介 (6)，氏家将志 (6)，
榎本 剛 (6)，金田幸恵 (7)，川瀬宏明 (7)，川村隆一 (5)，黒木志洸 (6)，小林文明 (2)，
櫻井南海子 (3)，嶋田宇大 (3, 5)，鈴木進吾 (2)，須藤三十三 (2)，高村奈央 (1)，
竹見哲也 (5)，竹村和人 (6)，中下早織 (6)，永田 茂 (2)，中村 尚 (5)，
林 昌宏 (5, 6)，平野洪賓 (4)，平野(市川)花 (6)，筆保弘徳 (3)，堀之内武 (5)，
益子 渉 (2)，丸山喜久 (2)，三隅良平 (4, 5)，美山 透 (5)，宮本佳明 (1, 3)，
柳瀬 亘 (1, 5, 6)，和田章義 (1, 5, 6)